

茨城大学同窓会連合会会報

2020.3
第14号

創立70周年記念懇親会集合写真

共に生きる活動を

茨城大学同窓会連合会
会長 外山 彬

現在、社会は大きな変革期を迎えています。社会の姿が目まぐるしく変わる中、日頃より同窓会活動に対し、ご理解、ご協力を賜わり感謝申し上げます。令和元年茨城大学は、創立70周年を迎えましたが、各種の記念事業に対し、各学部同窓会が各事業の推進に、ご支援いただき厚く御礼申し上げます。

茨城大学の歩みの中で10万人余の卒業生・修了生がわが国発の展に寄与し、県内外で幅広く活躍する有為な人材を輩出してきました。現在では5学部4大学院を有する総合大学に発展し、地域の知の拠点としての存在感を示していることは、同窓会といたしましても大きな誇りでもあります。これもひとえに歴代学長や教職員の方々、関係各位の尽力の賜であり、深く敬意を表する次第です。

さて、わが国では、急速な人口減少や少子高齢化が進行する中、社会経済のグローバル化や情報通信技術、人工知能の劇的な進歩など将来の予測が難しく変化の激しい時代を迎えており、このような社会にあって茨城大学では、「地域創生の知の拠点となる大学、その中で世界的な強み・特色の輝く大学」という目標を掲げ積極的な大学改革を進めていると伺っています。優れた研究実績を積み重ね、個性輝く人材の育成、連携ネットワークを生かした地域の活性化、新しい時代にふさわしい大学に発展することを期待しています。同窓会連合会としても支援してまいる所存です。更に、令和元年度に基金・同窓会課を設置し、各学部の同窓会会費の徴収を大学が一括して行うことを実現したことに対して大学側の配慮に感謝申し上げ、今後、各学部同窓会が力強く活動することを期待します。

チバニアン—科学史を飾る茨城大学発の成果

茨城大学
学長 三村 信男

茨城大学創立70周年を迎え、令和元年はいろいろな記念事業を行いました。とくに、農学部の「フードイノベーション棟」と日立キャンパスの正門前整備が竣工し、令和2年3月には水戸キャンパスの生協食堂の拡充が完成します。こうした中で、令和元年10月には、東京の一ツ橋講堂で初めての記念講演会を開催し、今話題の「チバニアン」をテーマにした岡田誠理学部教授の講演に、200人を越える参加者が聞き入りました。

その時には、「チバニアン」はまだ審査の途中でしたが、令和2年1月、国際地質科学連合で正式に決まり、日本の地名に由来する初めての地質時代「チバニアン（千葉時代）」が誕生しました。これは、千葉県市原市の養老川沿いにある地層にちなむものですが、チバニアンの名前が、世界中の理科の教科書に載るといふ、日本の科学史に残る本当にすごい成果です。岡田教授はその申請チームの代表を務め、本学の教員、学生がこの命名の科学的確かさを支える研究に粘り強く取り組んで来ました。このように尽力された皆さんに心からお祝いを申し上げますとともに、茨城大学としても大いに誇りたいと思います。

こうして、令和元年から2年にかけて、良いことが続きました。これも同窓会連合会をはじめ関係者の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。私の学長の任期は、令和2年3月末で満了になります。最後になりましたが、これまでのご支援に感謝すると共に、これからも茨城大学に対するご支援をお願い致します。

同窓会交流コーナー

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼幹事長 鈴木 章史

令和元年度は、第35回理事会（隔年開催）が7月11日（土）に三の丸ホテルで会員58名の出席のもと開かれました。この中で、例年のとおり大学基金の社会連携事業への寄付、人文社会科学部地域連携講座の経費一部負担協力をしました。総会後の講演会では、本年度開催された茨城国体に因み、人文学部第14回卒業生で茨城県国体・障害者スポーツ局長石田奈緒子氏を講師に招き、「茨城国体・障害者スポーツ大会について」お話しいただきました。その後の懇親会では、出席会員が同期毎に近況報告等のスピーチを行い併せて記念写真の撮影や景品付のゲーム大会をするなど、毎回ながら終始和やかな雰囲気の中、懐かしい話に大いに盛り上がり、同窓生の親睦交流を図り、盛会のうちに終了しました。



理事会で挨拶する文理・人文学部同窓会 会長 土田 惣一

現在、全学部同窓会に共通して新規会員の入会率の低迷が問題になっておりましたが、新年度入学生に対しては、大学側のご協力を得て、入学金等と一緒に納入する方法が取られることになりました。これにより、多くの会員の確保が図られ、今後の同窓会活動の円滑な運営を図ることができるようになるものと確信しております。さらに、会員相互の交流の活発化や情報の共有化など、今後とも入会者を多数確保するための方策を講じて行こうと考えております。

教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会副会長 岡部 千草



家政科支部総会並びに乾康代先生ご退官記念集合写真

教育学部同窓会は総会と代議員会を1年ごとに実施しています。令和元年度は令和元年6月23日（日）に総会を開催するとともに、平成29・30年度末に教育学部を退職された10名の先生方の退職記念祝賀会並びに懇親会を行いました。各科ごとに同窓会支部を結成し活動している様子も報告されています。

また、令和元年度は総会での同意を経て、教員採用試験直前対策費として、同窓会費から教育学部に100万円を拠出しました。今後もよりよいかたちで教育学部を支援していけるよう検討しています。

令和元年度、例年発行している会報は第52号となりました。特集のテーマを「今、求められる外国語活動」とし、新学習指導要領の趣旨を踏まえて編集されました。教員や大学院生の頁も含め、会員相互の情報交換の場ともなることをめざして会員に配布されています。

農学部同窓会の近況報告

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

農学部同窓会は規約を改正し、2019年度の新入生から準会員として入会ができるようになりました。昭和28年度卒業生から数えて8000人近くのOB・OGがいます。卒業してしばらくすると、会社説明など就職関係で頻繁に農学部を訪問してくれる卒業生も多くいます。大学を出たばかりでOB・OGとして訪問してくれるばかりでなく、社会人としての経験を積んで会社の重鎮となられた方も農学部の学生を会社に入れたいと熱意を持って訪問してくれています。農学部の発展の一つには、就職活動をバックアップできる組織が必要です。農学部同窓会が在校生と卒業生の間の架け橋となり、農学部の発展を支える組織になれることを希望しています。卒業生と在校生の同窓会会員にどのようなサービスが必要なのかをしっかりと考えていきたいと思っております。2019年度は、阿見キャンパスにフードイノベーション棟が竣工しましたが、同窓生からの寄付が多く使われています。この事業に同窓会としてある程度は貢献できたと自負しています。

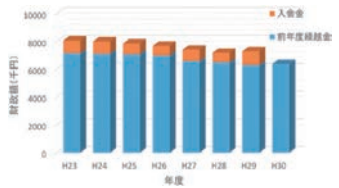


フードイノベーション棟

理学部同窓会の近況報告

理学部同窓会副会長 鈴木 忠和

理学部同窓会の運営は新入学生、在学学生、卒業生から支払われる永年会費、一万円により行われている。筆者が同窓会常任幹事会の活動に携わったのは平成22年度で、以来同窓会活動について財政面から憂慮していた。下図は筆者が活動に参加して以来昨年度（平成30年度）までの同窓会の運営状況を示したもので、活動を支える財政が右肩下がり減少しているのがわかる。この主な要因は図に見る通り入会金（同窓会新規入会者により支払われる会費）が毎年ほぼ一定でその額は80万円程度、すなわち毎年新たに同窓会へ加入する入学生数が80名程度であることに起因する。理学部入学生の定員は205名なので、入会する学生はほぼ40%にとどまっている。一方、同窓会活動に必要な運営金は例年ほぼ100万円程度で推移している。このことは、毎年同窓会へ入会する学生が100名程度、率にして50%ならば収支のバランスが取れて安定した活動が保証されることになる。図で平成29年度は例年になく99名の新入会生があったため次年度への繰越が前年度から減少することなく繰越されている。このことから新入会生100名の達成が目標である。同窓会常任幹事会においてもこのことは認識されており、このため入学生保護者説明会（4月）や大学から入学生への送付資料に同窓会の紹介と入会を促す資料を同封させていただき、啓発活動を行ってきた。理学部同窓会が抱えるこのような状況は、他学部の同窓会においても同じものと推測される。



第22回幹事会出席者

今般、大学から、各学部の同窓会費の徴収を大学が一括して行うとの英断がなされた。これにより同窓会入会生の増加が期待され、同窓会の運営面から非常に大きな進歩で、これまで抱えていた問題を一気に解決してくれるものと期待している。このことは当学部同窓会だけでなく、同じような問題を抱えていた他学部同窓会にとっても同様で、大学の大きな英断に感謝し、敬意を表したい。

多賀工業会（工学部同窓会）の近況報告

多賀工業会会長 杉田 龍二

創立70周年記念事業である工学部キャンパス正門周辺整備事業を、多賀工業会と工学部が一体となって推進しました。整備支援募金委員会を発足させ寄付のお願いしましたところ、多賀工業会会員をはじめとする多くの皆様から約2,000万円のご支援が得られました。工事は順調に進捗して、正門周辺が開放的な広々とした空間に生まれ変わり、そこにコンビニエンスストアもオープンし利便性が大きく改善されました。



整備された工学部キャンパス正門周辺

また本年度から、学生支援の一環として、卒業生による就職説明会をスタートさせました。職場での実体験を本音で語る先輩に対して、現役学生は熱心に話を聞き、積極的に質問していました。



就職説明会@多賀工業会

大学トピックス

創立70周年記念式典

令和元年5月25日（土）、茨城大学水戸キャンパス講堂で創立70周年記念式典を開催し、多数の同窓生と各界で活躍される皆様をお迎えしました。

第一部では三村信男学長が、未来へ向けた本学の新たなあゆみを表明したあと、永岡桂子文部科学副大臣（大臣祝辞を代読）、大井川和彦茨城県知事、永田恭介筑波大学学長、外山彬茨城大学同窓会連合会会長より祝辞をいただきました。



三村学長式辞

チャリーディングサークル「Cherry's」の華麗なパフォーマンスで幕を開けた第二部では、佐川泰弘副学長が本学の歴史と将来ビジョンを発表。最後は会場全員で校歌を斉唱し、70周年を祝しました。

創立70周年記念講演会の開催

令和元年10月26日、創立70周年記念講演会を東京都内の学術総合センターで開催し、約200人が参加しました。例年ホームカミングデーを学内の会場で開催していますが、今回は創立70周年を記念して初めて東京都内でイベントを開催。三村信男学長、外山彬茨城大学同窓会連合会会長が挨拶を述べたあと、佐川泰弘副学長が、本学のあゆみと記念事業に関するプレゼンテーションを行いました。記念講演は、理学部の岡田誠教授による「チバニアンと地質時代」。千葉県市原市の地層「千葉セクション」のGSSP認定に向けた申請活動の裏話にも触れながら、活動の背景や地質学のおもしろさについて1時間にわたって講演し、参加者は興味深く聞き入っていました。講演会終了後は懇親会も催され、各学部の同窓会長による挨拶のほか、5月に行われた創立70周年記念式典の記録映像上映、在学生による歌のパフォーマンスなどが披露され、会場は大いに盛り上がりました。最後に参加者全員で声高らかに校歌を斉唱し、盛会のうちに幕を閉じました。



茨城大学同窓会連合会役員

名誉会長	三村 信男	(茨城大学学長)	副会長	福地 省行	(農学部同窓会会長)
顧問	尾崎 久記	(茨城大学理事・副学長(学術統括))	代表幹事	齋藤 英敏	(教育学部同窓会会計部)
顧問	太田 寛行	(茨城大学理事・副学長(教育統括))	幹事	鈴木 章史	(文理・人文学部同窓会副会長兼幹事)
顧問	能島 征二	(日本藝術院会員)	幹事	渡邊 将司	(教育学部同窓会会計部)
		(公益社団法人日本美術展覧会副理事長)	幹事	山村 靖夫	(理学部同窓会常任幹事)
		(公益社団法人日本彫刻会常務理事)	幹事	清水 淳	(多賀工業会理事)
会長	外山 彬	(教育学部同窓会会長)	幹事	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事)
副会長	土田 惣一	(文理・人文学部同窓会会長)	会計監事	鈴木 忠和	(理学部同窓会副会長)
副会長	久保田益充	(理学部同窓会会長)	会計監事	糟谷 政和	(文理・人文学部同窓会理事兼幹事)
副会長	杉田 龍二	(多賀工業会会長)			

平成30年度事業報告 (事業期間：H30.10.1～R01.9.30)

年月日	事業項目	内容
H30/10/26	第41回幹事会	①第13回茨城大学同窓会連合会総会の議事について ②大学と同窓会の意見交換会について(継続検討) ③ホームカミングデーの実施について ④第13号会報の発行について
H30/11/17	第13回総会	①平成29年度事業報告及び収支決算について ②平成30年度事業計画案及び予算案について ③平成30・31年度役員について
	ホームカミングデー2018開催	大学との共催事業(5万円)
H30/11/30	「茨城大学基金」への寄附	茨城大学基金への寄附 5万円 茨城大学基金(創立70周年事業)への寄附 50万円
H31/3/5	会報「第13号」発行	発行部数:5,000部 卒業生・修了生への配付 職域同窓会等への郵送

平成30年度収支決算 (会計期間：H30.10.1～R01.9.30)

事項	収入		備考	支出	
	決算額	円		決算額	円
1 繰越金	1,099,662			1 管理費	118,839
2 会費	250,000		同窓会連合会費 (5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	2,307
3 事業費	0		総会後の懇親会をホームカミングデーに組み込んでいるため、会費等の収入は無し	(2) 印刷費	113,400
4 預金利息	7	2月分・8月分		(3) 事務費	3,132
合計	1,349,669			2 事業費	600,000
				(1) 会議費	0
				(2) 交際費	0
				(3) 寄附金	550,000
				(4) 共催金	50,000
				3 予備費	0
				合計	718,839
				残額	630,830

令和元年度事業計画 (事業期間：R01.10.1～R02.9.30)

年月日	事業項目	内容
R01/10/26	茨城大学創立70周年記念講演会・懇親会(ホームカミングデーin東京開催)	大学との共催事業
R01/10/30	第42回幹事会	①第14回茨城大学同窓会連合会総会議事について ②第14号会報の発行について
R01/11/16	第14回総会	①平成30年度事業報告及び収支決算について ②令和元年度事業計画案及び予算案について
	茨城祭 ホームカミングデー	茨城大学同窓会連合会としてブースを設置(来訪した卒業生へ同窓会連合会会報等が見られるようにする)
R02/2/27	「茨城大学基金」への寄附	5万円を寄附
R02/3/	第13回茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	
R02/3/10	会報「第14号」発行	発行部数:5,000部(案) 卒業生・修了生への配付を予定
R02/5/	第43回幹事会	【主な議題】水戸キャンパス茨城祭(11月)でのホームカミングデー実施について
R02/8/	第44回幹事会	【主な議題】茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会について
R02/9/	第15回 茨城大学と同窓会連合会及び学部同窓会との意見交換会	

* R02/4/1 新学長就任 茨城大学執行部が新体制

令和元年度予算 (会計期間：R01.10.1～R02.9.30)

事項	収入		備考	支出	
	決算額	円		決算額	円
1 繰越金	630,830			1 管理費	160,000
2 会費	250,000		同窓会連合会費 (5学部同窓会×5万円)	(1) 通信費	30,000
3 事業費	0		総会後の懇親会をホームカミングデーに組み込んでいるため、会費等の収入は無し	(2) 印刷費	120,000
4 預金利息	10	2月分・8月分		(3) 事務費	10,000
合計	880,840			2 事業費	140,000
				(1) 会議費	10,000
				(2) 交際費	30,000
				(3) 寄附金	50,000
				(4) 共催金	50,000
				3 予備費	580,840
				合計	880,840

編集後記

令和もあっという間に2年になりました。令和元年5月には創立70周年を迎え、同年10月には一橋講堂にて記念講演会を開催しました。茨城大学同窓会連合会は、年1回ホームカミングデーを開催しています。ホームカミングデーでは卒業生に久しぶりに会うことができ、近況報告や学生時代の思い出が蘇る憩いの時間を過ごすことができたと参加者から好評をいただいております。基金・同窓会課の活動が目される一年になるよう努力していきたいと思っております。今後も大学の教育・研究、学生支援にご協力をお願い致します。T.T

茨城大学同窓会連合会事務局
(国立大学法人茨城大学総務部基金・同窓会課内)
〒310-8512 水戸市文京2-1-1
電話：029-228-8781 FAX：029-228-8249

茨城大学HP
<http://www.ibaraki.ac.jp/>
茨城大学同窓会連合会HP
<https://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>